

JAEF REPORT

令和5年1月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 新年のご挨拶
- ◆ 18県で教材贈呈式、交流促進活動を実施
- ◆ 分解組立式小型EV “PIUS” を用いた特別講習を実施

- ◆ 各部会・委員会にて令和4年度上期活動状況を報告
- ◆ 27道府県（54件）の研修会に講師を派遣
- ◆ 令和5年度 講師派遣募集開始

新年のご挨拶

財団運営

新年おめでとうございます。旧年中は弊財団に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

自動車業界では、“百年に一度の大変革期”と言われてしばらく経ちますが、カーボンニュートラル社会の実現を目指した電動車両の開発や、事故のない安全なクルマ社会づくりを目指した自動運転技術の開発と、大きな変革のうねりの真ただ中にあります。加えて緊迫する世界情勢により資源・エネルギー価格が高騰し、自動車産業や私たちの生活に多大な影響が生じています。また、教育現場ではコロナ禍を契機にICT化の進展、DX社会への対応と、高等学校における自動車教育も変容しようとしています。

このような中、財団では高等学校に対する支援の一層の強化を図るべく、令和4年度は以下の取り組みを重点テーマに据え、活動してまいりました。

【財団事業を取り巻く環境】

- 若者の「クルマファン」作りの必要性
- 自動車教育担当教員の高齢化・人員減少に伴う教員支援強化
- 教育現場でのICT化進展に伴うデジタル教材の必要性

【重点取り組み事項】

- 1. 分解組立実習の支援、最新技術に関する情報発信強化**
 - ・ 財団職員によるPIUS特別講習（分解組立指導）実施（R3～）
 - ・ 汎用EG分解組立動画作成（R3）、視聴覚教材DVDの刷新（R4～）
- 2. 先生、高校生を対象とした動画サイトの構築**
 - ・ 『早わかり！クルマ塾』のコンテンツ配信（R2～）
- 3. 財団情報の利用促進強化**
 - ・ 教科/テーマに沿ったHP/支援メニュー等の改修（R4～）
 - ・ 教科別教員団体、教育関係メディアとの連携強化（R3～）

新型コロナウイルス感染が収束を見せず、様々な困難な状況は続いています。皆様のご支援のもと、各取り組みとも計画通り推進することができました。改めまして御礼申し上げます。

とりわけ、学校関係者との対面での対話が3年ぶりに実施でき、次年度以降の活動に向けた様々な示唆が得られたことは貴重な収穫でした。

一言で申し上げますと、「産学連携によるものづくり人材の育成」がますます求められてきているということです。自動車はもはや機械部品の集合体ではなく、電気電子部品の集合体と化しています。この流れを受け、高等学校では総合的な学習の場になろうとしています。例えば、東京都立の高等学校は、令和5年度から「〇〇工業高等学校」の名称が「〇〇工科高等学校」に変更となります。他の県でも「総合学科高等学校」に名称変更するところが出てきています。

こうしてみると、従来より実施している自動車の最新技術に関する講師派遣の活用促進、ICT化に対応した教育ツールの開発、財団活動の周知による活用促進など、財団としてやるべきことはまだまだあると思っています。ただ、これらの活動は財団だけで成しえるものではありません。自販連様や各支部様、日整連様や各整備振興会様、その他自動車関係団体・企業の皆様のご支援が不可欠であります。何とぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

▲工業系先生方向けのチラシ

INFORMATION

1～3月予定

- 5都県（6件）の研修会に講師を派遣 1月～3月
- 各部会、委員会を開催 2月
- 第28回理事会を開催 3月

◆ 18県で教材贈呈式、教育懇談会を実施

…令和4年10月～12月

技術教育

財団は、令和4年度の技術教育支援事業の一環として、自動車技術教育用教材を18県91校に提供することとなった。教材提供にあたり、10月に4県、11月に9県、12月に5県の計18県において、各県自動車教育推進協議会*（以下、推進協議会）と共催で「自動車技術教育用教材贈呈式」（以下、贈呈式）を開催した。全対象県での開催は、3年ぶりとなる。

各地で地元新聞社などマスコミの取材を受け、その報道を通じて各地域での推進協議会活動に対する理解の促進に繋がった。

【令和4年度 教材贈呈式・教育懇談会 開催実績】

対象県	開催日	開催場所
秋田	11/21	秋田県自動車会議所
山形	11/11	パレスグランデール
群馬	11/4	ホテルラシーネ新前橋
山梨	10/31	山梨県自動車販売店会館
新潟	12/20	ANAクラウンプラザホテル新潟
長野	11/15	ホテルメトロポリタン長野
徳島	10/19	徳島県自動車整備会館
香川	10/20	JRクレメントホテル高松
愛媛	12/22	愛媛県自動車会館
高知	11/22	ネットトヨタ高知(株)高知店
福岡	11/17	ソラリア西鉄
佐賀	11/25	ホテルグランデはがくれ
長崎	12/9	ホテルセントヒル長崎
熊本	12/9	熊本ホテルキャッスル
大分	12/16	レンブラントホテル大分
宮崎	11/8	宮崎観光ホテル
鹿児島	11/21	鹿児島サンロイヤルホテル
沖縄	10/13	沖縄県立沖縄工業高等学校

【贈呈式の様子】



贈呈式とともに、地域に密着した自動車教育を推進していくための情報交換の場として教育懇談会（意見交換会）を行った。



贈呈式、教育懇談会共にコロナ禍に鑑み、出席人数を絞り込んでの開催とした（推進協議会から原則2団体：自販連、整備振興会、各高等学校からは1名の参加）。「今までよりも、活発な意見交換ができた」と感想を述べている方もおられ、参加者を絞ることにより、限られた時間の中で有意義な意見交換・質疑応答の場となった。当懇談会にて、教育現場の意見を直接聴くと共に、学校関係者と自動車業界の現状等について共有できたことは、整備士の人材確保・育成における有用な支援等を今後検討する上で大いに参考になった。

＜贈呈式にあわせ、自動車ディーラー見学会を開催＞

高知県においては初の試みとして、贈呈式をディーラー本社にて開催、その後ディーラー店舗の見学会を実施し、教育懇談会にて意見交換を行った。参加した先生からは「整備工場を見学することにより、現場環境が大きく改善していることを実感し、ディーラーに対する印象が変わった」「VRにて自動車の最新技術を体感することで技術の進歩を実感した。このような体験が出来る財団の講師派遣を活用して、生徒がクルマへの興味を持つきっかけとしたい」等、多くの気付きがあったとのこと、有意義な見学会となった。

贈呈式・教育懇談会については、高等学校の先生方に対する自動車業界への理解促進や有用な情報提供の機会とすべく、最適な開催場所についても現地の推進協議会と連携を図りながら検討していく。

【ネットトヨタ高知(株)高知店での見学会の様子】



* 各都道府県の自動車販売店協会、自動車整備振興会、軽自動車協会、日本自動車連盟支部、日本損害保険協会支部の5団体（一部の県では中古車販売店協会が参加）を中心に構成。

分解組立式小型EV “PIUS” を用いた特別講習を実施

…令和4年10月～12月

技術教育

財団は、昨年度から重点取組事項のひとつ「体験型授業の充実」の施策として、分解組立式小型電気自動車“PIUS（ピウス）”を用いた特別講習を実施している。当該期間で下表の5回を実施し、年度計画の計10回を完了する（※12/27実施予定分を含む）。

電気自動車の分解・組立から試乗までをパッケージとした新たな形の講習に対し、多くの受講者から好評を得た。

【PIUS特別講習 実施校、対象等（10～12月）】

開催日	開催地	実施校	対象
10/6, 7	宮崎	都城東高等学校	モビリティ科2年生 31名
10/13, 14	宮崎	都城東高等学校	モビリティ科3年生 24名
11/3	岐阜	県立岐阜工業高等学校	機械研究部員 10名
11/8, 9	静岡	飛龍高等学校	自動車工学科 1年生19名
※12/27	静岡	県立科学技術高等学校	機械工学研究部 14名

2) 都城東高等学校 <10/13、14実施>

モビリティ科3年生を専科課程（自動車整備短大相当）進学者15名と就職予定者9名の2班に分け、2日間コースで実施した。自動車ディーラー系列に就職する生徒も多く、閉講式では「当講習が自動車の構造を理解するのに大変役に立った」という意見があった。

3) 県立岐阜工業高等学校

部活動の一環として受講した生徒達は9人が3年生。、工具の使い方にも慣れており、作業は順調に進行し、プログラムを完遂。リーダーによる作業の的確な管理、作業プログラムのシートや作業マニュアルの活用をもとに正確な作業を行っていた。試乗コースも広く、のびのびと試乗を満喫していた。



▲県立岐阜工業高等学校での講習

1) 都城東高等学校 <10/6、7実施>

昨年に続く受講で、昨年実施時の写真等を新入生勧誘にも使用する資料に掲載するなど、当講習を高く評価いただいている。

昨年は参加人数が多かったため、実習を2班に分け、「分解」「組立」の何れかを担当としたが、一連の作業を望む反響が多かったことから、今年度より設定した2日間コースにて実施した。1班あたり15名程度と少人数で対応できたため、PIUSに触れる機会も増え好評であった。



▲都城東高等学校での講習

4) 飛龍工業高等学校

昨年に続く受講で、1年生を対象に実施。工具の使い方等を習ったばかりで、実践する良い機会となった。但し、自動車に関する知識はまだ少ないため、分解、組立の作業手順等の理解が難しいようであった。自分たちで組立てたPIUSに試乗する表情は、とても満足気であった。



▲飛龍高等学校での講習

各部会・委員会にて 令和4年度 上期活動状況を報告

…令和4年10月

財団運営

財団は10月に、右表の通り事業ごとの部会や事業委員会、企画委員会を開催した。4事業とも当年度事業計画に沿ってほぼ計画通りに進捗していることが報告され、報告事項は異議なく承認された。

個別には、技術教育支援事業では「技術の出前授業やPIUS特別講習は生徒の関心が高いので、支援継続・強化を望む」、普及啓発事業については「動画は5分ほどの尺で、内容構成が予め分かると学校でも使い易い」、研修事業に関しては「講師派遣について、学校のニーズへの適合、生徒を飽きさせないなど更なる工夫の余地あり」等の意見や質問があった。

【部会・委員会の開催実績】

部会・委員会名	開催日
技術教育部会 (技術教育支援事業)	
調査普及部会 (調査研究/普及啓発事業)	10/24 (月)
研修部会 (研修事業)	
事業委員会 (事業総括)	
企画委員会 (財団運営)	10/28 (金)

27道府県、54件の研修会に講師を派遣

…令和4年10月～12月

研修

財団は、高等学校や教育委員会からの要請を受け自動車関係団体や企業から専門の講師を派遣している。令和4年度10～12月の講師派遣実績は、開催件数54件（前年同期差±0）、キャンセルは1件（同▲2件）であった。参加者は13,508名（同▲115名）、平均参加者数は250名/件（同▲3名）と、昨年度同様コロナ禍により開催規模を抑制する状況が続いており、今後もこの傾向が続くものと考えられる。

全54件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	34	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 環境・交通技術	6	
3) 自動車技術	14	主に工業系の生徒

研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1) 交通安全：計34件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	26
夜間の交通安全対策	4
交通事故を起こして問われる責任	2
自転車を取り巻くリスクとその責任	1
二輪車（バイク）の交通安全	1

「交通安全」分野の34件のうち、オンライン研修は8件（前年同期差+3件）と、コロナ禍に影響を受けない研修体制が定着してきている。



▲沖縄県立久米島高等学校での講師派遣（交通安全）

2) 環境・交通技術：6件

地球温暖化と自動車技術	5
自動運転技術が拓く未来と人との協調	1

実施校からは、脱炭素に向けた世界情勢や自動運転の正しい知識を得られ、これからの学習のきっかけになった旨、ご評価いただいた。



▲長野県下伊那農業高等学校での講師派遣（交通技術）

3) 自動車技術：計14件

最新技術：生徒対象	13
整備技術：教員対象	1

先進安全技術を搭載した実車の試乗、普段目にする機会の少ないスポーツカーや高級車の展示等、担当された講師及び関係団体・企業の皆様による工夫もあり、受講者からも高い評価を得た。



▲神奈川県立向の岡工業高等学校での講師派遣（自動車技術）

講師派遣にご協力をいただいた関係団体、企業等の皆様には、紙面をお借りして深謝申し上げます（講師派遣実績表は別紙ご参照）。

令和5年度 講師派遣募集開始

…令和4年12月

研修

財団は、令和5年度 講師派遣支援の申込要領を12月22日付で全国の高等学校（約6,000校）にFAXで案内すると共に、申込受付用ホームページを開設した。各校の次年度計画策定に反映させられるよう、同月より申込受付を始めている。

講師派遣の対象は各地の学校、教育委員会等が開催する研修会で、令和4年度と同様「交通安全」、「環境・交通技術」に関する計8つの研修メニューを提供する（「自動車技術」に関するメニューは、令和5年3月募集開始予定）。

オンライン形式の研修会の利用が定着してきており、今後新型コロナウイルス感染が再拡大した場合でも、代替方式（オンライン形式）で確実に受講機会を提供できるよう、学校や講師を担っていただく各関係団体・企業の皆様と連携を図ってまいります。

関係団体・企業の皆様には、引き続きまして専門講師派遣へのご協力をよろしくお願い申し上げます。